

商いの新しいものさし

第52回

（株）商い創造研究所
代表取締役

松本 大地

幸福感が生まれるポートランドの生活文化

メインストリームは主流という意味だが、大衆にとって親しみやすい、一般の人達にも手に入るといった価値観の均質、同質化といった意味も含まれる。その反対にあるのが、体制的な文化に對抗するカウンターカルチャーやサブカルチャーといった少数派の個々の考えによって生み出される価値観である。

昨今、米国オレゴン州ポートランドのサブカルチャーが様々なマスメディアで紹介され、続々と飲食や商品が日本に持ち込まれることが増えている一方、ポートランドの本質的なこと、独特の価値観が理解されずに、次々とブームとして一過性の消費で誘導されていくことへの危惧も感じている。

ポートランドに行くたびに思うのは、常に「生活を大切にしよう」「生活を楽しむ」ものさしが根底にあること。そこからどういう未来を、街を、コミュニティを、どんな働き方を、暮らし方をといった大きなビジョンやライフスタイルのアイデアが生まれる。この街の神髄は恵まれた環境で仕事や生活を楽しむ豊かな人生を、住む人たちが自分でつくりあげること。



サードウェーブコーヒーにしても、地域の人に愛されるカフェはなんだろうと考えたとき、なければ自分たちでつくりたい、くつろげる場、居心地の良さ、個々の好みに合わせた味、アート、音その点を抜きに、サードウェーブコーヒーの表面ばかりを取り入れたのでは、ブームで終わる消費の流行の繰り返しになってしまわないだろうか。カフェや朝食だけではない。ファーマーズマーケット

つかのポートランドのパンケーキ店を日本の企業が東京で展開するケースを自にする。ポートランドでは7時から15時ごろまで営業するフレックファーストレストラン業態が多く、そのメニューもパンケーキやワッフル、バーガーなど豊富にある。どこもアットホームでリーズナブルな料金設定であり、朝から豊かな一日の始まりを過ごす風景がある。ならば日本でも朝食ブームを見て導入しても、ほとんど効果はない。何故ならば、多くは分量を減らしたランチの縮小版といった程度で、そこに朝食らしい提案も雰囲気もコミュニケーションも皆無では魅力的な朝食スタイルはつくれない。

楽などが交差したテイリーカフェ業態が生まれた。そこに持続可能な社会を目指すポートランドらしく、発展途上国の南米やアフリカの生産者から適正価格で継続的に取引するフェアトレードで生産地の保護や育成をすることで、より品質の高い素材ができる。家族や仲間と共に上質で丁寧な生活を送りたいという、スローライフの独特の空気感とカフェの存在は切り離すことができない。

その点を抜きに、サードウェーブコーヒーの表面ばかりを取り入れたのでは、ブームで終わる消費の流行の繰り返しになってしまわないだろうか。カフェや朝食だけではない。ファーマーズマーケット

ケットやクラフトマーケットなど、食とアートと心地良さが溶け合うことで、独自の生活文化が育つのがポートランド流だ。北米で最大級のクラフト市となったサタデーマーケットは、ここだけのオリジナル商品という縛りがあることで、品質の高さとデザイン性に優れたモノが並ぶ。そこに出来たての食を提供するフードカートとライブミュージックが合わさり、ゆったりとした幸福感が溢れる。

そんなポートランドの生活文化を体験できるイベントを、横浜、ベイクロスターでプロデュースすることとなった。ニコアードやアクタス、ワイヤードカフェといったポートランドと縁が深いテナントも入居し、また川辺に面したオープンなパブリックスペースを有するロケーションは、ポートランドの心地良いダウンタウンを彷彿させる。このリソースを使い、5月22日から3日間行われるポートランドフェスタのコンセプトは「Get Hold of Portland」。ポートランドで活躍するレストラン・オーナーによる食とライフスタイルのセミナーや、湘南や横浜のアーティストやクラフト作家40人が出店するクラフトマーケットの他、神奈川ローカル食を集めたファーマーズマーケット、飲食店テナントによるランチ、ハッピーアワー、会場内でのライブミュージック、またオレゴン州やポートランドのクラフトビールや特産品を集めたワゴンなど、ポートランドの生活文化体験ができるイベントだ。多くの人が集まる商業施設から、ポートランドの生活を大切に、生活を楽しむ術を学び発見ができれば幸いである。